

鳥飼まちづくりグランドデザイン  
(居住性向上エリアA)  
-取組の方向性(8)-

～魅力ある淀川河川敷～  
第1回ワークショップ

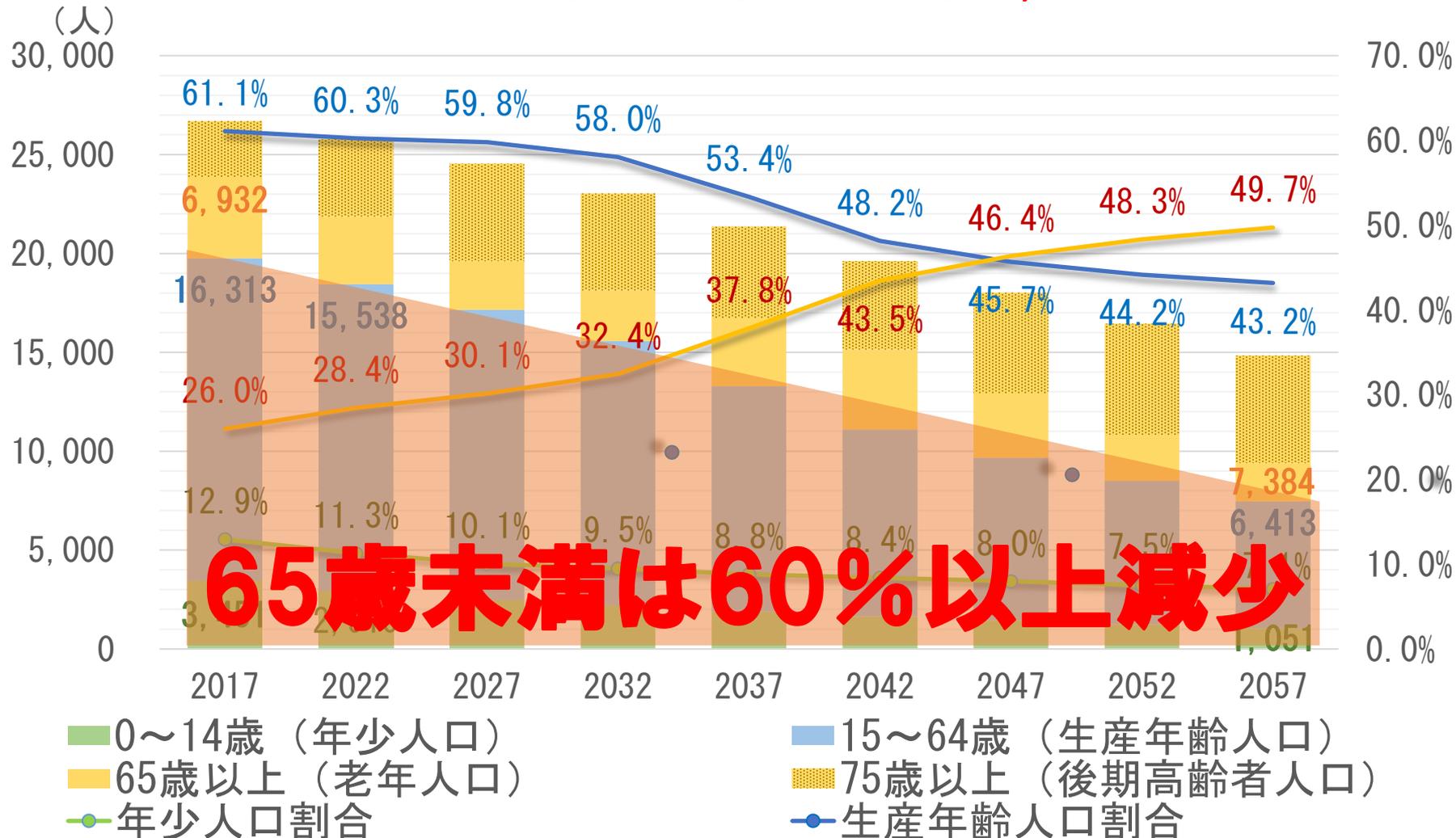
令和5(2023)年9月26日



# 鳥飼地域の現状

## 将来人口の推計(鳥飼地域)

2017年と比較し2057年には**生産年齢人口+年少人口は約12,500人減少**する推計



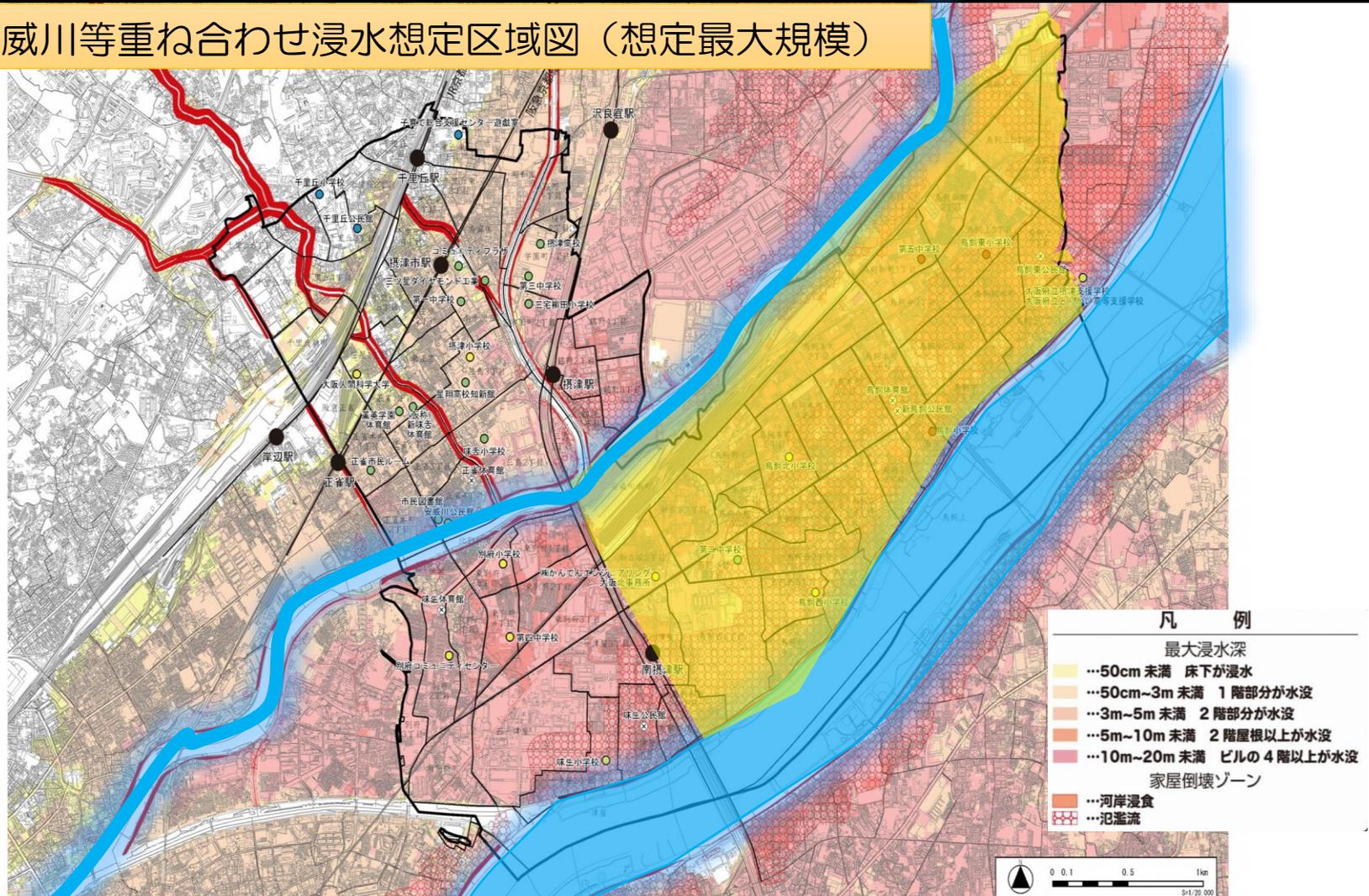
出典：摂津市「2040年問題を背景とした行政課題等の分析及び解決に向けた基礎調査等支援業務報告書」

# 鳥飼まちづくりグランドデザインについて

## 鳥飼まちづくりグランドデザインの背景

鳥飼地域は淀川と安威川に挟まれており、水害リスクが高い。最大浸水深7m以上、浸水継続最大時間2週間以上のところもある。

淀川+安威川等重ね合わせ浸水想定区域図（想定最大規模）



想定最大規模：1年の間に発生する確率が1/1000（0.1%）程度の降雨の規模

# 鳥飼まちづくりグランドデザインについて

## 鳥飼まちづくりグランドデザインの目的

鳥飼まちづくりグランドデザインはR3（2021）年度に鳥飼まちづくりグランドデザイン策定委員会にて検討され、住民の生命と身体を守る「危機管理（防災）」の観点を軸として、誰もが「安全・安心」に過ごし、「にぎわい」と「暮らしやすさ」が調和したまちを目指し、R4（2022）年7月に策定されました。

危機管理

（防災）



まちづくりグランドデザイン



摂津市

安全・安心

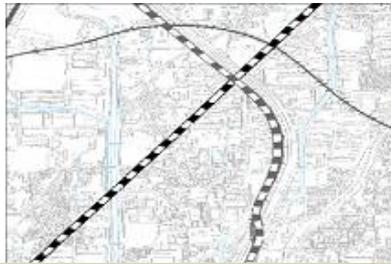
にぎわい

暮らしやすさ

# 鳥飼まちづくりグランドデザインについて

## まちづくりエリアの設定

鳥飼地域は、淀川や河川公園、田畑・水路、工場・倉庫の事業所群や大阪銘木団地、大阪モノレール南摂津駅など多様な地域資源が点在。鳥飼地域を一体として議論することは、**適当ではない**と考えました。



出典：(株)パプアニューギニア海産 HP  
<https://pngebi.shop/>



# 鳥飼まちづくりグランドデザインについて

## まちづくりエリアの設定

4つの「まちづくりエリア」①人ともものが集まる賑わい（核）エリア、②居住性向上エリア、③企業と住民の共存発展エリア、④田園（農業とのふれあい）エリアを設定し、地域資源や地域の個性を改めて評価し、地域ごとの特徴に磨きをかけ、まちづくり（グランドデザイン）を検討

② 居住性向上エリアB



④ 田園（農業とのふれあい）エリア



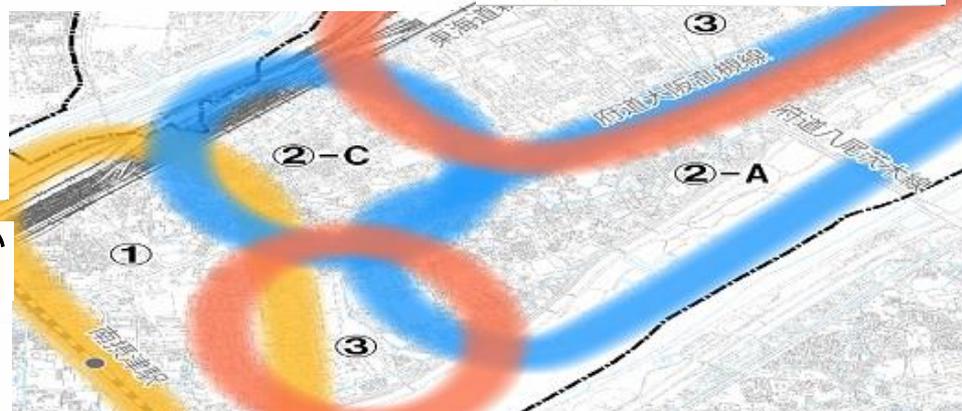
③ 企業と住民の共存発展エリア



② 居住性向上エリアC



① 人ともものが集まる賑わい（核）エリア

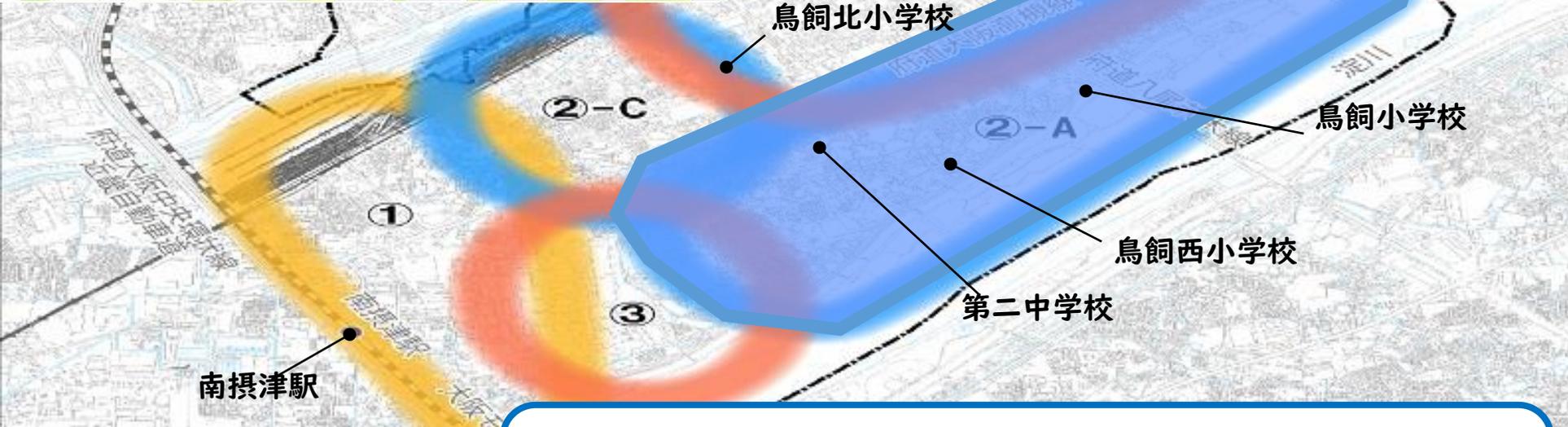


② 居住性向上エリアA



※このイメージパースは鳥飼まちづくりグランドデザイン策定委員会が出た意見を全て詰め込むとこのような感じになるだろうというイメージです。

# 鳥飼まちづくりグランドデザインについて



## ② 居住性向上エリア (Aエリア)

地域の魅力を活用しながら、居心地が良い、住みやすい環境を整えるエリア

水の潤いを感じ、ゆとりのある居住空間

# 鳥飼まちづくりグランドデザインについて

## 鳥飼まちづくりグランドデザインの考え方

鳥飼まちづくりグランドデザインは、危機管理（防災）の観点からはじめ、地域資源に着目し、子や孫の世代の将来予想を提示し、実現するための現時点での課題及び課題解決に向けた取組の方向性をとりまとめたもの

現時点での将来予想や、課題・課題解決の方向性をとりまとめたものであり、事業計画ではありません

孫や子の世代の将来予想

現時点での課題解決に向けた取組の方向性

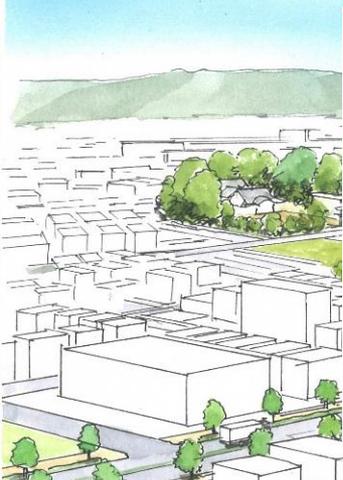
現時点での課題

地域資源

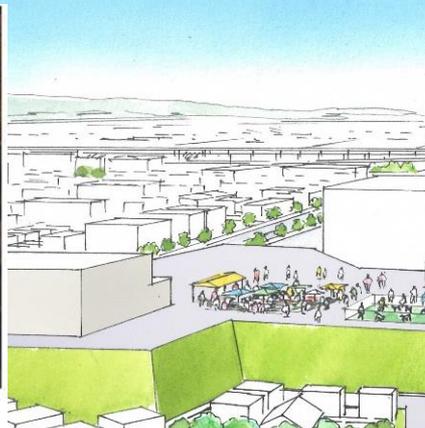
危機管理  
(防災)

# 居住性向上エリア(Aエリア) (将来予想)

※イメージ



藤森神社の献灯行事(ねりこみ)



淀川河川公園



古くからの集落地



用水路



# 居住性向上エリア(Aエリア)の特徴

## 【エリアの特徴】

当エリアは古くからの集落が存在するエリアであり、脈々と人の営みが紡がれてきました。淀川に沿う形でエリアが形成されており、河川敷の淀川河川公園には運動やペットの散歩等をする人が多くおり、特に休日にはイベントの開催等と相まってエリア内外から多くの人々が来てにぎわっています、

また、地域内には、点在する水田と縦横に張り巡らされた淀川から取水している農業用水路があり、古くから継続する献灯行事（ねりこみ）などで知られる藤森神社があります。また、かつては鳥養牧や三本松天神社などがあったとされています。

一方、当エリアは、水害時には最大で3m～10m、浸水継続時間も2週間以上が想定されていることから、広域避難など、命を守る行動を確実に実施することが求められています。



# 居住性向上エリア(Aエリア) (将来予想)

【将来予想】 ※淀川河川敷に関するもの  
淀川河川敷ではサイクリングやドッグラン等の住民のライフスタイルに合わせた多様な利用がなされている

【現状と課題】 ※淀川河川敷に関するもの  
イベントの開催やスポーツ、散歩等の利用はみられますが、地域のにぎわい創出にまだ貢献できているかは不明

【課題解決に向けた取組の方向性】 ※淀川河川敷に関するもの  
淀川河川敷の、地域のにぎわい創出や多様なライフスタイルを支える「場」としての活用を推進します

# 居住性向上エリア(Aエリア)淀川河川敷に関する意見

## 淀川の活用

- 淀川を子どもが安心して遊べる場所にする
- 淀川河川公園を整備し、水面や景観を楽しめる賑わいの場所とする
- 淀川の水や生き物を学び、体験できる
- 外来種駆除
- 淀川の水面を利用したレジャー（魚釣り大会）やスポーツ（トライアスロン）ができる
- 淀川の渡し舟を復活
- 川の駅
- 桜並木・遊歩道

## スポーツ

- 摂津フルマラソン大会(年1回、外国人参加)
- 芝生や様々なスポーツができる多目的運動広場
- 自転車コース等を整備し、スポーツサイクルの休息拠点を提供する
- ローラースケートやストライダーレース大会ができる空間をつくる

## スタイル

- BBQエリアを充実させ、グランピングができる
- ゴルフアプローチ
- ドッグラン
- 屋外イベントの開催を通じて人々の賑わいを創出する
- ラジコン大会ができるドローンフィールドをつくる

## 教育等その他

- 淀川の歴史や遺産を学ぶことができるハイキングコース
- 水防センターにプラネタリウムや展望エリア
- イベント用に大型駐車場を整備し有料化する
- 防災ステーション内に、カフェやレストランを併設（淀川の魚を食する等、地産地消メニューや、非常食を使ったメニュー）
- こども食堂
- 複合スポーツ施設(合宿可能)
- 既存施設の活用
- ※ネーミングライツ・・・市有公共施設に企業の施設命名権を付与し、対価を得る
- ※デザインコンペ・・・建築設計を公募し設計競技方式で発注

# 鳥飼まちづくりグランドデザインについて

## 鳥飼まちづくりグランドデザインを実現するための進め方

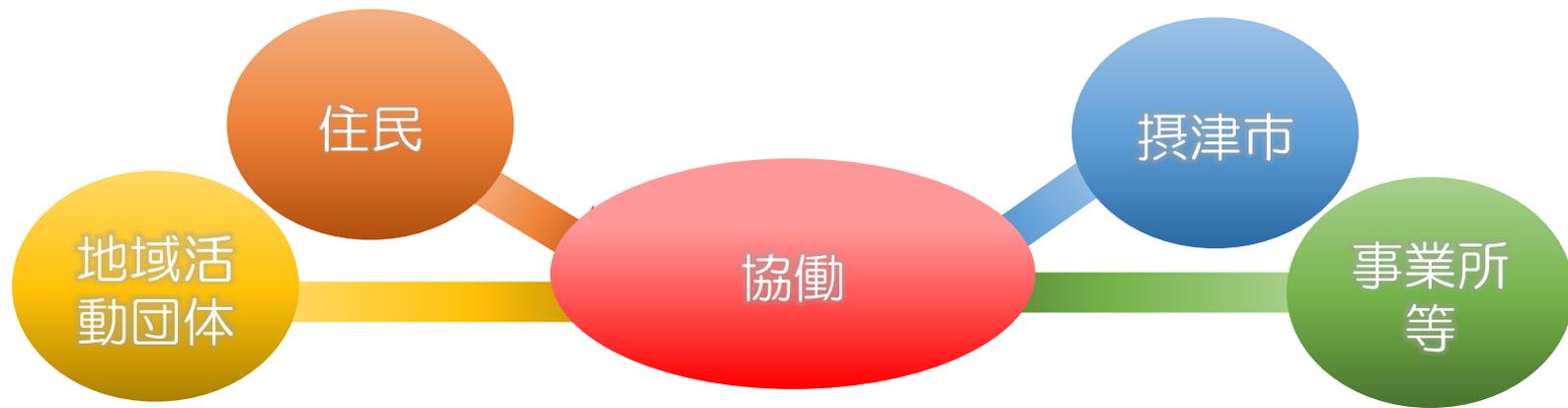
まちづくりは行政だけでは限界があります。住民や地域活動団体、市内事業者等様々な方の連携・協力が必要不可欠です。目指したい将来予想を共有し、共に協働することでまちづくりを進められると考えています。

地域のすべての世代の住民、関係するすべての地域活動団体、事業者等と鳥飼地域の現状や課題の共有、意見交換を行う

多様な世代の地域住民や関係者等との対話を重ねながら地域の意見も踏まえた将来予想に必要なに応じて修正する

将来予想の実現に向けた取組等の優先順位、関係者間の役割分担についてワークショップ等により整理等を行う

関係者等の協力を得られたものから具体的な市の施策や事業スキームを検討し、事業実施に向けた財源確保に取り組む



# 淀川の活用についての重要度・難易度の考え方

重要度：A～D（高→低） 難易度：1～4（低→高）	意見	重要度	難易度
A1 重要度：高 難易度：低	淀川を子どもが安心して遊べる場所にする	居住性向上エリアAの将来予想（地域資源を生かした魅力ある環境づくり）を実現していく上で、子どもが安心して遊べる場所が近くにあることは子育て世代として過ごしやすい環境であり、定住性につながるものと考える。	現状の淀川の河川敷では、草の背が高く、見通しが利かない場所があり、また、水辺の整備もされていないことから親水性（安全性）が高くない。国に親水性向上のための整備を要望するとともに、市民団体等も自ら草刈り等子供の安全性を高める活動を行うことで実現する。
A3	淀川河川公園を整備し、水面や景観を楽しめる賑わいの場所とする	居住性向上エリアAの将来予想（地域資源を生かしたにぎわいと魅力ある環境づくり）を実現していく上で、人々が憩える空間を整備することは、エリア内外の人々が集い、語らい、活用する場を創出することであり、にぎわいの場、定住性向上につながるものと考える。	河川区域内の公園のため、大きな構造物を設置することはできないなど、通常の公園整備よりも制約が厳しい。淀川河川公園地域協議会で十分な議論を経て、治水と人々の活動とのバランスをとって整備していく必要がある。
A2	淀川の水や生き物を学び、体験できる	居住性向上エリアAの将来予想（地域資源を生かした魅力ある環境づくり）を実現していく上で、子供を含め淀川をよく知り、淀川とともに生活する楽しさと怖さを理解することは、当該エリアで生きていく上で必須事項と考える。	親水性を高める整備を国に要望するとともに、学校の授業での利用や河川レンジャーとの協働など、既存の枠組みを活用して実施可能であると考える。
D4	外来種駆除	外来種駆除は、自然環境の保全という観点からは重要な活動ではあるが、当該エリアのみでの活動では効果は限定的と考える。	淀川流域全体での取り組みが必要で、市を超えての協力が不可欠。
C3	淀川の水面を利用したレジャー（魚釣り大会）やスポーツ（トライアスロン）ができる	イベントという一過性のにぎわいという点や外からの人の呼び込みという点では効果があると考えられるが、直接的に居住性の向上に繋がるものではないと考える。	ハード整備は大きくは必要ないが、一定程度の整備は必要。大会をするにあたり、実施主体やボランティア等の確保が課題となる。
D3	淀川の渡し船を復活	歴史的な意味、かつてのライフスタイルを記録するという観点からは重要であるが、現在は他に移動手段があり、当時の機能のままでの復活は困難。新しい機能（活用方法）の検討が必要。	運営団体の確保が必要となり、持続性を考えると、採算性等の向上が課題と考える。
B4	川の駅	淀川には現在川の駅がないため、希少性からの集客性、地元での雇用創出や地産地消の効果が期待できる。地域の活動拠点としての活用も期待できる。	土地（沿川の民地等。防災ステーションは国の施設のため利用不可）、運営主体の確保が必要となる。
B4	桜並木・遊歩道	堤防上に桜並木・遊歩道があれば、ランドマークとなり、当該エリアに住みたいと思う人が増加する可能性がある。一方で桜守など、きれいな桜を維持するためには周辺住民のお世話が不可欠。	現在の堤防には桜を植えるだけのスペースがない（洪水に耐えられる構造物として作られており、これに木などを植えることはできない）ため、堤防を拡幅することが必要であり、これに付随して、法尻道路沿いの沿道の民家のセットバックが必要となる。

## 淀川河川敷の将来予想実現に向けて必要な取り組み

- ・ 地域資源を生かした取り組み
- ・ 居住性向上の取り組み
- ・ 若い世代の定住を促す取り組み
- ・ 市民が集え憩える場所に繋がる取り組み

## 意見が上記の取り組みに該当する個数

- ・ 4 個 重要度A
- ・ 3 個 重要度B
- ・ 2 個 重要度C
- ・ 1 個 重要度D

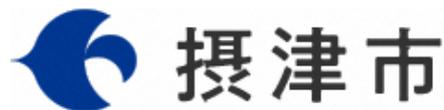
鳥飼まちづくりグランドデザイン  
(居住性向上エリアA)  
-取組の方向性(8)-

～魅力ある淀川河川敷～

第1回ワークショップ

ご参加ありがとうございました

令和5(2023)年9月26日



グランドデザインへのご意見はこちらから

ご意見・ご感想等何でも  
お気軽に送ってください。

メールの場合はこちら↓↓

[torikai-machizukuri@city.settsu.osaka.jp](mailto:torikai-machizukuri@city.settsu.osaka.jp)

